

パオちゃん's EYE

2021年5月1日発行 No.50

「畠田和一貝類コレクション展4」

「畠田和一貝類コレクション展4 畠田和一が採集していた岡山県の絶滅種3」を4月10日（土）から9月26日（日）まで当館2階事務室前にて開催しています。

当コレクションは畠田和一氏（1897-1965）が1930年代から1960年代にかけて収集した約3,000種、約24,000個体に及ぶ貝類の標本で、特に当時の岡山県内産の標本を多数含んでいるなど、学術的な価値が高く評価されています。

今回の展示では「畠田和一が採集していた岡山県の絶滅種」のうち「湾口部または外洋を主な生息場所とする種」としてヒナシタダミ、ダンベイキサゴ、チグサカニモリ、コハナマツムシ、コホラダマシ、キンチャクガイ、ユキノアシタ、ヒシガイ、サギガイ、ズングリアゲマキ、シラオガイ、サツマアカガイ、ワスレガイの13種を紹介しています。

岡山県と香川県にはさまれた備讃瀬戸海域は、瀬戸内海の中央部にあたり、東西の湾口から最も遠い奥部に位置するため、海水の入れ替えが少なく、事実上の閉鎖性水域です。そこへ戦後の高度経済成長期に汚水による水質悪化が発生し、さらに埋め立てや護岸工事などの海岸の大規模な改変が加わり、これらの種は絶滅してしまったと考えられています。現在の岡山県の海岸環境を見る限り、これらの種がどこにどのように生息していたのかを想像することは極めて困難です。しかしながら、畠田和一貝類コレクションとして後世に伝えられたこれらの標本は当時の岡山県内に湾口または外洋の環境を好む種が生息できる環境が確かに存在していたということを雄弁に物語っているといえるでしょう。



江田伸司(動物担当)

パオちゃんズアイに関するお問い合わせは

倉敷市立自然史博物館

〒710-0046 岡山県倉敷市中央2-6-1

電話:(086)425-6037 FAX:(086)425-6038

E-mail:musnat@city.kurashiki.okayama.jp

博物館ホームページには

いろんな情報がいっぱい♪

「倉敷市立自然史博物館」で

検索してみよう! パオより

